

第1回 防災教育推進連絡協議会 in 釜石市

実践報告資料 / 石川県輪島中学校 (平成26年4月開校)

石川県輪島市立輪島中学校
校長 小川 正

はじめに

東日本大震災により犠牲となられた多くの方々、今まさに、復興に懸命に立ち向かわれ生き抜こうとしておられる方々の姿等に思いを至らせ、そこから日々の教育に様々な形で切り込んでいくことは、わが国の教育にかかわるものの使命であり責務であると考えます。

ねらい

- ・防災・減災への取り組みを通して
未来を生き抜く人づくり
顔の見えるふるさとづくり

学校の使命

教育活動を通して地域貢献を為す

- ・あたりまえの普段を見つめ直し (感謝)
今自分にできること (貢献) を考え、
すべきことを考え行動し (真剣に学ぶ)、
人のつながり (家族・地域) 大切に生きていく姿の育成をめざす。

防災教育を通して

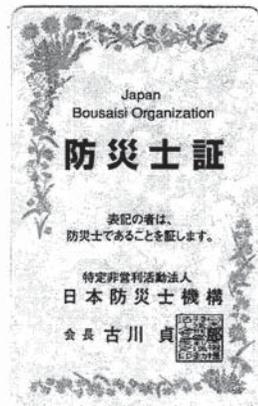
心を育み、学ぶ姿勢を確立する
— 今を大切に生きる姿 —

基本姿勢

- ・できることから、まずはやってみる / 動けば変わる 「行動する学校」
生徒が動けば、保護者が動いてくださる
生徒・保護者 (学校) が動けば、地域 (校区町会) が動いてくださる
学校・地域が動けば、諸団体・関係機関が、そして行政が動いてくださる
- ・学校と地域が一体となって進める自主防災
- ・地域報道各社との連携推進 「発信する学校」

実践 (16学級、生徒476名、職員44名)

- 啓発 / まずは生徒・職員の意識喚起
 - ・東日本大震災の映像資料の視聴と解説
 - ・避難所運営ゲーム (ハグ) の実施
- 人材育成 / 核となる生徒職員の育成
 - ・防災士育成 / 市防災体策課との連携
中学生 5名
教職員 教員2名、校務員1名
- 外部との情報交換・連携
 - ・輪島市社会福祉協議会
 - ・各種ボランティアグループ



ゲームで避難所を運営

輪島中生徒 防災意識高める

「A関係者は一役員、難れに拍音が掛かりか不在は農協への信用失 ねえ」と話した。(渡辺大地)

避難所運営ゲームを通して防災意識を高める生徒たち。輪島中。

輪島市輪島中学校で、上履置き、紙上でシミュレーションした。生徒八、九人でグループを構成、社会福祉協議会が避難者の情報を読み上げた後、生徒は避難別、健康状態、家族構成などの情報を踏まえた上で、被災状況を避難所から適切な場所にカードを配置していった。妊婦を助産師がいる場所へ誘導したり、テ

東日本大震災の被災映像も見て、当時の記憶を新たにした。小川正校長は「東北であった震災を忘れず、自分たちが今、何をすべきかを考えて」と呼び掛けた。(松瀬晴行)

避難所運営 生徒が学ぶ

輪島中30日、災害時に開設される避難所暮らしを生徒が疑似体験する「避難所運営体験ゲーム」を初めて実施した。能登半島地震から7年、東日本大震災から3年がたつ中、

東日本大震災を教訓に、沿岸部にある輪島市では子どもたちのための防災教育が必要であるとして小川正校長が企画した。30日は、2年生130人が8人グループに分かれて「HUG(ハグ)」と呼ばれる図上訓練に臨んだ。

輪島中は比較的市街地に近いため、災害発生時には大規模避難所となる可能性が高いとされる。5月には金大地震工学研究室が津波発生時に市内で最大約2千人が逃げ遅れるとの試算結果を示したこともあり、同校は避難訓練に加え、子どもが津波で取り残された場合を考え、避難後の訓練も実施することにした。

30日は生徒が、さまざまな状況や品物の名前が書かれたカードを引き、けがが発生や断水など、さまざまな条件への対応策を考え、また避難所の見取り図上に、避難者に見立てたカー

生徒たちの震災の記憶を風化させないため、通常は行政関係者が行う図上訓練を生徒が体験し、万一の際に必要となる知識を身に付けたい。

図上訓練 カード使い対応考え

ドや米、布団などの物資カードを配置し、避難所暮らしを想像した。

市によると、「子どもだけでなく、上夏未さんは「避難後の生活も大変だと感じた。訓練を重んじて、指導に当たった市社会福祉協議会の七尾幸子事務局長からは「役割を考えながら状況に応じて対応してほしい」と話した。小川校長は「災害時は自助、共助が大切になる。普段から災害対応を考え、行動してほしい」と呼び掛けた。

ゲームを通して避難所運営について考える生徒。輪島中。

輪島中

中高生の防災士育成

輪島市議会 受講料など補助

答弁で市長

輪島市議会6月定例会は17日、本会議を再開し、4氏が代表、一般質問に臨んだ。梶文秋市長は答弁で、防災体制の強化に向け、中高生の防災士資格取得を支援する考えを示した。NPO法人日本防災士機構の研修講座などの受講料を補助する。防災意識が高く、避難誘導ができる若者を地域に加え、学校や家庭にも細かく配置されるよう促す。

市によると県内市町では初めての試みとなる。防災士の資格取得に年齢制限はなく、県内では自治体支援で資格を得た大生はいるが、中高生はいない。県内には11歳の資格取得者もいるという。

研修と救急救命講習を受け、試験に合格すれば取得できる。市内各校を通じ、奥能登地区を対象とした防災士資格取得研修講座を希望者に受講してもらう。

今年度は現時点で中学校の教員、生徒15人、保育士や公民館主宰など30人が研修の受講を予定している。

玉岡了英氏（拓政会）の代表質問、下善成氏（勇気）の一般質問に答えた。

若い力で地域に貢献

個人・団体28件を表彰

第19回 北国あすなろ賞

北国新聞社が善行や奉仕活動などを通じて地域に貢献した児童、生徒を表彰する第19回北国あすなろ賞の表彰式は25日、金沢市の北国新聞の階ホールで行われ、個人の部は団体部16件に賞状や盾、副賞が贈られた。

表彰式では、高瀬基北國（け取り）、来賓の北川龍彦石（りゅうげん）を含唱した。川原健福社社長が谷本正（たけの）知事の祝辞を代読、野口小（のぐち）中、高校生対象として弘前市教育長が祝辞を贈った。もりのみやこ少年少女会が「あゆむ」として、個人や団体の活動を紙に挿げ、十五の君へ（ご）と題して、個人や団体の活動を広く表彰している。

加賀コンビニ強殺（かが）情報提供を求める（かが）発生4年前に大聖寺（おおい）加賀市桑原町で発生したコンビニ強盗殺人事件が11月3日、4年となるのを前に、新着（しんしやく）副賞や賞状約20人が、防犯カメラに写っ



地域に貢献した児童生徒をたたえた北国あすなろ賞の表彰式
—北国新聞20階ホール

防災力の向上に力注ぐ

わじまキッズランド(輪島市)



輪島市の小学4年から高校3年まで20人以上が所属し、防災活動に力を注ぎ、昨年、東日本大震災の被災地、仙台市を訪問した。現地の子どもたちとの交流を通じて学んだ知識を冊子にまとめ、市内の関係機関に配布した。昨年8月の市福祉大会では、市民約600人の参加で、防災意識の向上に尽力している。今年、メンバーの中学生5人が県内初の中学生防災士となった。上加夏未さん（か）輪島市2年、は二人でも多くの人が、防災に関心をもちたいと話した。

輪島市 防災士、464人態勢に

新たに54人、充足率84%

輪島市防災士認定状況は、今年度、防災士に登録された市民に認定証が贈られた。県内初の中学生防災士8人を含む54人が加わって464人態勢となり、町会単位で防災士が在住する比率を示す防災士充足率は84・19%に高まった。



梶文秋市長が出席した33人に認定証を手渡し、代表

トを贈った。梶市長はあいさつで、地域や組織の中で防災のリーダーが果たす役割の大きさを強調した。市の防災士数は県内市町で、人口比ではトップで、市は町会数に対する充足率が67%となっている。自主防災組織の強化を推進する。新たに誕生した防災士は12～65歳で、中学生、教員、保育士らも登録された。中学生を含め新たに防災士となった市民に認定証が贈られた伝達式—輪島市役所